

鹿島市・地域循環共生圏の取組（ローカルSDGs）について

背景

現状の課題

事業の目的

これまでの取組

事業内容

- ・有明海の赤潮・青潮の発生等の環境異変により、漁獲量は低迷、海苔養殖が主流
- ・2015年に肥前鹿島干潟がラムサール条約登録地となり、少しずつ市民の関心が戻りつつある。

- ・肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー制度の普及促進
- ・有明海及び肥前鹿島干潟の環境保全（災害による漂着ごみ、カモによる海苔の浸食被害等）
- ・ラムサールブランド認証品（ラムサール米やSDGs牛等を活用したメニューの開発、販路拡大）【肥前鹿島干潟基金】

- ・有明海の環境保全を通じてSDGs目標達成を目指す
- ・地域循環共生圏（肥前鹿島干潟の循環）の創造による 持続可能な循環共生型の社会の構築

- ・環境省「地域循環共生圏構築の実証地域における活動団体」に選ばれる（H28～30） 全国10地域の一つに選ばれる
- ・環境省「地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築の活動団体」に選ばれる（H31～R2） 全国35地域の一つに選ばれる
- ・佐賀県内金融機関5行との連携協定を締結（R2）、佐賀新聞社との連携包括協定を締結（R3）
- ・環境省「地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業化支援活動団体」に採択（R3） 全国8地域の一つに選ばれる
- ・日本政策金融公庫より融資実行（R3）

- ・清掃活動（スポGOMI大会in鹿島）
- ・海の森事業（植樹）
- ・ラムサールブランド認証品の磨き上げ（ラムサール米、SDGs牛等を活用したメニュー開発、販路拡大）
- ・LEDを使ったカモの誘導実証実験
- ・グリーンインフラからのビジネス展開（棚田と酒造り）
- ・超小型モビリティカーを活用したエコツアー（駅整備計画×RPA）

「肥前鹿島干潟の循環のしくみ」



すべては 有明海の未来のために



鹿島市・地域循環共生圏の取組（ローカルSDGs）について

得られる
成果等

- ・干潟の環境が良くなる
- ・有明海特有の海産物にラムサールブランドの付加価値が付き、地域の特産物として都市部へ発信できる
- ・食や環境といった干潟の恵みにより地域が活性化
- ・市民全体が有明海の保全・再生に関わり、その恩恵を実感
- ・地域の活力を最大限に発揮する構想であり、その創造によりSDGsやSociety5.0の実現にも繋がる

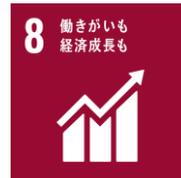
企業に求めるもの等

- ・事業展開のための資金提供
- ・事業の協働パートナー

企業のメリット

- ・社会貢献企業としてのPR
- ・新たな事業展開につながる

寄附を
する
メリット
等



企業との連携イメージ



連絡先

佐賀県 鹿島市役所 総務部理事 松林 聡

TEL 0954-63-2101

E-mail satoshi-matsubayashi@city.saga-kashima.lg.jp